

第2回航空／海上（合同）更改専門部会 議事要旨

1. 日 時 : 平成25年2月7日（木） 15:30～16:30
2. 場 所 : ソリッドスクエア ホール（ソリッドスクエア地下1階）
3. 出席者 : 別紙のとおり
4. 議事の概要
 - (1) 開会
 - (2) 部会長選出
 - 航空及び海上更改専門部会の部会長に、東京税関小林総務部長が選出された。
 - (3) 取締役挨拶
 - センター山村取締役より、更改専門部会開催にあたり挨拶が行われた。
 - (4) 第6次NACCS基本仕様書（案）について
 - ワーキンググループ（以下、「WG」という）長である東京税関大野総括システム企画調整官より、WGにおける検討結果についての報告が行われた。
 - 事務局（センター）より、議事資料1に基づき、第6次NACCS基本仕様書（案）の概要についての説明が行われた。引き続き質疑応答が行われた後、事務局提案の第6次NACCS基本仕様書（案）をもって最終案とすることで了承された。
 - (5) 第6次NACCS更改に係る今後の予定について
 - 事務局（センター）より、議事資料2に基づき、第6次NACCS更改に係る今後の予定についての説明が行われ、その後質疑応答が行われた。
5. 意見交換の概要
 - ご説明いただいた「第6次NACCS基本仕様書（案）」について、2点確認させていただきたい。
 - 1点目は12ページに業務仕様のあり方として、第6次NACCSは原則として現行フローを踏襲という説明があった。NACCSについては、シングルウィンドウ機能の拡充、グローバルサプライチェーン等への対応等を図ってきており、我が国の物流における武器となるものと期待している。しかしながら、現行の仕様を踏襲するとなると、この期待に本当に応えて貰えるのか懸念を覚える。貿易物流全体を俯瞰する業務フローを描き、その中でどのようにNACCSを活用し、貿易の活性化に繋げるのか等を議論すべきと申し上げてきた。現行の業務フローのまま踏襲するという事は無いと考えている。
 - 2点目はiNACCSに関してであるが、同提案についてはNACCSが持つ情

報の有効利用といった観点から期待をしているところである。しかし、15ページに平成31年2月の実施も検討と記載されている。4年半先を目指して検討している現段階で、開発時期が遅れる可能性を含んでいることは意外であり、この点、理由を説明願いたい。(委員)

⇒ 1点目について、現行システムで提供している業務処理フローについて、大きく見直した場合は、関係利用者或いは物流そのものに多大な影響を与えることから、根幹的な部分は引き続き堅持するという考え方を示したものである。他方、NACCSは行政手続きの始まりから終わりまでを基本的には対象とし、更にその前後に位置する民業業務も取り入れているが、特に民業業務については、情報として足りていない或いは抜けているところもあると認識しており、この点については今後継続的に検討を進め、必要な見直しは行いたいと考えている。

続いてiNACCSに関しては、本サービスでは新しく過去情報も対象とした情報提供サービスを始める予定であり、ある程度情報が蓄積された状態になってから提供するという事も想定している。いずれにせよ、サービス開始時期の可能性として示したものであり、詳細については今後検討させていただきたい。(事務局)

以上